

オーストラリア・クィーンズランド州の クィーンズランド・コア・スキルズ・テスト

研究開発部試験制度研究部門 山村 滋
佐藤 広志

はじめに

ここでは、オーストラリアの東北部に位置するクィーンズランド州の後期中等教育（高校）修了段階の生徒を対象に実施されているクィーンズランド・コア・スキルズ・テスト（Queensland Core Skills Test, 以下QCSテストとする）の概要について述べたい。同州の大学入学者選抜制度は、中等学校側の評価資料の利用という点で、世界的にも最も先進的なものの一つであるといえよう。まず、大学入学者選抜制度の概要とそこにおけるQCSテストの位置・役割について触れた上で、テスト自体について述べることにする。

1. 大学入学者選抜制度の概要とQCSテスト

クィーンズランド州では、中等学校の成績を、公平性・信頼性を確保しながら大学入学者の選抜に利用する工夫がなされている。同州の大学入学者選抜制度を簡略化して言うならば、後期中等教育の2年間での選択による履修

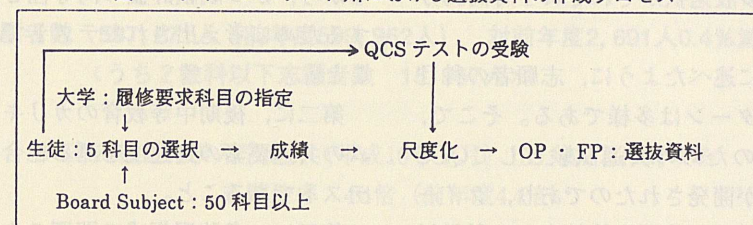
科目（基本的に5科目）の成績をもとに、各生徒の学力が、州全体においてどこに位置付くかを示す指標（オーバーオール・ポジション：Overall Position：OP）及び各生徒の特定の学力領域に関する同様な指標（Field Position：FP）を算出して、各大学の選抜資料とする制度である（図1）。

高校の成績を大学入学者選抜に利用しようとするときに、我が国でまず問題となるのは、成績評価の高校間格差の問題であろう。クィーンズランド州では、我が国の学習指導要領のような、州の定めるシラバスがあり、その中に評価基準に関する規定も盛り込まれている。そして、学校間の成績評価の同等性を保つ工夫がなされているのであるが、さらに、大学入学者選抜のため上記のOP及びFPを算出する際に、QCSテストにより中等学校の成績を尺度化（scaling）することにより、中等学校間の成績評価の同等性を確保している。なお、大学入学志願のために認められる科目（Board Subject）

は50科目以上ある。大学側は、その中からあらかじめ志願のために必要な履修科目を指定する（これは2科目以下の場合が多い）。志願者は、指定された科目を含めて、通常5科目選択する。したがって、志願者の選択パターンは

大変多様となり、選択科目が異なる生徒の成績を同一尺度で表示するためにも、QCSテストが利用される。つまり、科目間の成績評価の同等性が保たれているのである。

図1 クィーンズランド州における選抜資料の作成プロセス



2. QCSテスト

上述したように、各科目の成績をOP及びFPに変換するためのテストが、QCSテストである。「QCSテストは、特定の科目の到達度テストや知能テスト、もしくは適性テストではない。シラバスに基づいた、クィーンズランドの後期中等教育カリキュラムの49の共通要素（Common Curriculum Elements：CCEs）に関する生徒の到達度を測る」カリキュラム横断型テスト（総合学力テスト）である。このテストを、高等教育への進学を希望する中等学校最終学年の生徒は必ず受験しなければならない。

QCSテストの問題は、三つの種類から構成されている。①エッセイ、②

多肢選択式問題、③短答式問題の3種類であり、多肢選択式問題は2種類（多肢選択Ⅰと多肢選択Ⅱ）ある。

多肢選択式は、四つの選択肢の中から一つを選択する形式の問題であり、全部で100問である（多肢選択Ⅰと多肢選択Ⅱがそれぞれ50問ずつ）。

短答式問題は、受験者に短い文章や図を書かせるなどして答えさせるものである。試験問題はユニット（Unit）、アイテム（Item）から構成され、1ユニットは1ないし2のアイテムから成る。ユニット数は10程度、アイテム数は25程度である。なお、アイテムによっては二つ程度の問いがある場合もある。

エッセイは、提示されたいくつかの

文章、写真、絵、図などをもとに、600語程度の散文を書くというものである。

このテストは、最終学年の後期、8月下旬、若しくは9月上旬の二日間、延べ7時間にわたって実施される。その内訳は、エッセイと短答式が2時間ずつ、多肢選択がそれぞれ1時間30分である。

すでに述べたように、志願者の科目選択パターンは多様である。そこで、尺度化のための共通試験としてQCSテストが開発されたのであり、クイーンズランドの後期中等教育の2科目以上のシラバスに含まれる60のCCEsのうち、ペーパー・アンド・ペンシル・テスト (paper and pencil test) で測定可能な、長文の要約ができること、グラフが書けること、仮説を立てること、統合すること、など49のCCEsの到達度がQCSテストで測られる。なお、各問題は、共通要素のうちのどれを測る問題であるかが、テストの実施後に公表されるQCSテストの報告書 (Retrospective) に示されている。が、CCEsの要素によっては、必ずしも特定の問題に特に結びつくものとは限ら

ないものもある。

3. QCSテストの特徴

以上がQCSテストの概要であるが、同テストの特徴は以下の点にあるであろう。

第一に、多様な科目選択を可能にしながら、かつ成績評価の同等性を確保するために考え出されたテストであること。

第二に、後期中等教育のカリキュラムの共通要素の到達度を測る総合学力テストであること。

第三に、多肢選択式の問題のみでなく、短答式やエッセイなどの問題形式を取り入れていること。

第四に、テストの成績そのものは、直接の選抜資料とはせず、中等学校の成績の尺度化に利用していること。

我が国では、高校教育の多様化に伴い、多種類の科目別の試験を作成せざるを得ないことに伴う困難点・問題点が生じているが、複数の教科・科目にまたがる試験を開発しようとするときに、QCSテストは様々な示唆を与えてくれると思われる。